

2022年11月17日

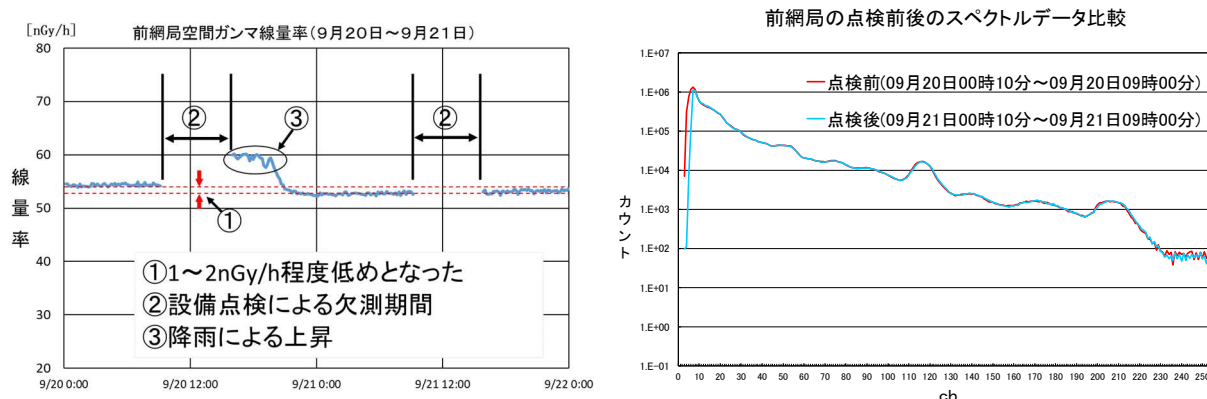
東北電力株式会社

モニタリングステーション前網局の空間ガンマ線量率測定結果の扱いについて

1. 事象概要

今年度第2四半期の環境放射能調査結果をまとめていたところ、モニタリングステーション前網局において、2022年9月20日および21日に実施した設備点検以降、空間ガンマ線量率(以下、NaI線量率)が設備点検前と比較し1~2nGy/h程度減少していることが確認された。

そのため、10月25日に現場調査を行った結果、本来NaI線量率は測定するエネルギー領域を約50keV~3MeVに設定するところ、約90keV~3MeVになっていた。



2. 原因

定期点検実施時の状況を確認した結果、以下の事実が判明した。

- (1) 点検手順書に基づき、測定するエネルギー領域の下限を定める設定値(ディスクリレベル)を確認した結果、所定の値(約50keV相当)であったことから、調整を行う必要がないことを確認した。
- (2) ディスクリレベルの調整方法について、経験の浅い作業員から作業責任者への質問があったことから、操作後に復旧することを前提として関連する設定値を変更(約90keV相当)したが、その後、戻す操作を実施しなかった。
- (3) (1)に記載のとおり、点検の結果は「設定値(ディスクリレベル)変更の必要なし」であったため、不適切な値に設定された状態であることに気付かぬまま点検が終了した。

以上より、今回の事象の原因は、

- ・設定が変更されていたことが点検終了時に発見できなかったこと。
- ・点検上必要のなかった設定変更の操作を予定外に実施してしまったこと。

であると考えられる。

なお、10月25日に設備点検前の状態に戻し、10月26日にその他の設備や設定値に問題がないことを確認のうえ復旧している。

また、当社が管理している他のモニタリングステーション3局については、測定エネルギー領域に問題がないことを確認している。

3. モニタリングステーション前網局の測定値の扱い

設備点検以降、復旧するまでの測定値については、測定する低エネルギー領域が約90keV以上に設定され、NaI線量率が1～2nGy/h程度低くなっていたことから、参考値扱いとする。

なお、測定されていなかったエネルギー領域は、モニタリングステーション前網局の約50keV～約90keV程度の狭い範囲のみであることから、発電所からの予期しない放出の監視に大きな影響はなかったと考えている。

また、当社ホームページでリアルタイム公開をしている電離箱検出器での測定に問題はなかった。

4. 再発防止対策について

今回の事象の原因に鑑み、以下の対策を行う。

- (1) 測定に係る各種設定値が、点検中に予定外に変更されていないことを点検の最終段に確認するよう点検手順書を改善する。
- (2) 点検上不要な操作の実施は不可であることを作業関係者へ周知する。

以 上